

「気づきから行動へ」を合言葉で進める 環境学習施設

豊田市環境学習施設eco-T（エコット）事務局長 おさない たかひさ 長内 隆久

■市民が運営するエコットの誕生！

エコットは、とがり渡刈クリーンセンターの工場見学案内だけでなく、さまざまな環境学習プログラムの参加・体験を通して、「気づきから行動へ」変革する「人づくり」を目指しています。

そのきっかけは、環境学習施設基本計画の策定において、「市民参画なら、その分野で先駆的に活躍するNPOを活用してはどうか」との、コンサル会社からの提案でした。そこでNPO法人 中部リサイクル運動市民の会が、2回のワークショップのファシリテーター（進行役）を務め、2003（平成15）年にその計画が策定されました。

翌年、環境学習施設運営利用計画および展示実施設計が策定され、2005（平成17）年に、さまざまな会議を重ねて、展示学習プログラムの製作や、施設運営等についてまとめられました。「運営は市民でやれるといい」とか「インタープリター（案内役）やファシリテーターが必要だ」といった意見もこの過程で出てきました。

2006年度、産業フェアや交流館祭等でのPR活動において施設の愛称を市民公募したところ、1,907件も意見が集まりました。その後公開審査会で決まった愛称がeco-T（エコット）です。この名前は6つのT（Toyota、Togari、Town、Terrace、Teacher、Textbook）の意味が込められています。



エコットの外観

そして待望の環境学習施設が、2007（平成19）年6月にオープン。運営管理は、NPO法人 中部リサイクル運動市民の会が担いました。2008（平成20）年度から、豊田市民からなる新たなNPO法人の設立準備をして、2009（平成21）年3月にNPO法人 とよたエコ人プロジェクトを設立。2009（平成21）年度からエコットの運営トレーニングを実施し、2010（平成22）年度からNPO法人 とよたエコ人プロジェクトが運営管理業務を受託して現在に至ります。

■エコットってこんなところ！

エコットは愛知県地球温暖化防止活動

推進センター豊田支所という看板をもつ全国唯一の施設です。展示室では、20の学習プログラムがあり、地球温暖化をはじめ、ごみの組成や処理状況、また、スーパー・えこっとで模擬的に買い物を行うなどして、ごみが出ない方法をインタープリターを通じて体験学習できるようになっています。その他、登録市民団体が無料で借りられるワークショップルームや調理室などがあって、年間約3万人の来館者が利用してくださっています。

6～10月にかけては、小学4年生を対象にした焼却施設の案内や、出前授業が集中します。毎年約70校を超える児童が来館します。その対応もインタープリターが行います。

■インタープリターの育成と研修

エコットは「市民が市民に伝える」という活動目線を掲げています。市民が主体的に行動しなければ環境問題は解決しません。そこで、エコライフへの案内役を担う「インタープリター」という市民ボランティアを毎年育成しています。現在11期生までの約70名のインタープリターが在籍中です。

12月から8名の12期生を育成中です。育成講座の司会は事務局スタッフが担いますが、講座内容の進行は先輩のインタープリターが担います。これも「市民が市民に伝える」というエコットの活動目線を基本に行っているものです。受講するにつれて対話を重ねることで仲間意識が芽生え、主体的に動く様になります。

また、現役のインタープリターのステップアップを目的とした研修も数回行っています。例えば、出前授業のプログラムを実施できるインタープリターの固定化

が課題となっているため、自主的に次のステップアップを図ろうとするインタープリターを一人でも多く育てることを狙いに出前講座のプログラム研修を実施しています。また、他の環境学習施設から運営や事業のノウハウを身につけることを目的にバス研修も行っています。

■何をすることも「ふりかえり」が大事

例えば、出前授業をする場合、事前に事務局スタッフと担当インタープリターと一緒に打合せをします。今回の目的やプログラムの流れ、担当の確認等を行います。そして、出前授業を終えたとすぐに再び事務局スタッフと担当インタープリターが集まってふりかえりをします。目的が果たせたか、時間通りに進行できたか、うまく伝えられたか等、意見を出し合います。このように、インタープリターと事務局スタッフが良い点や課題点を共有することが、持続的にエコットを運営管理していく上で欠かせません。

■今後求められる「量」と「質」

豊田市は今年度から第8次総合計画が施行、来年度から新環境基本計画が施行されます。ただ来館者の増加を目標にするのではなく、どれだけ市民に気づきを促し、行動してくれたのかの本質が求められています。そのため、現在、既存の環境学習プログラムの改善や新規プログラムの企画づくりを実施しています。

最後に、環境学習プログラムや運営についてご助言やご質問等を頂けたら幸いです。よろしくご申し上げます。

eco-T「エコット」豊田市環境学習施設
www.eco-toyota.com/index.html